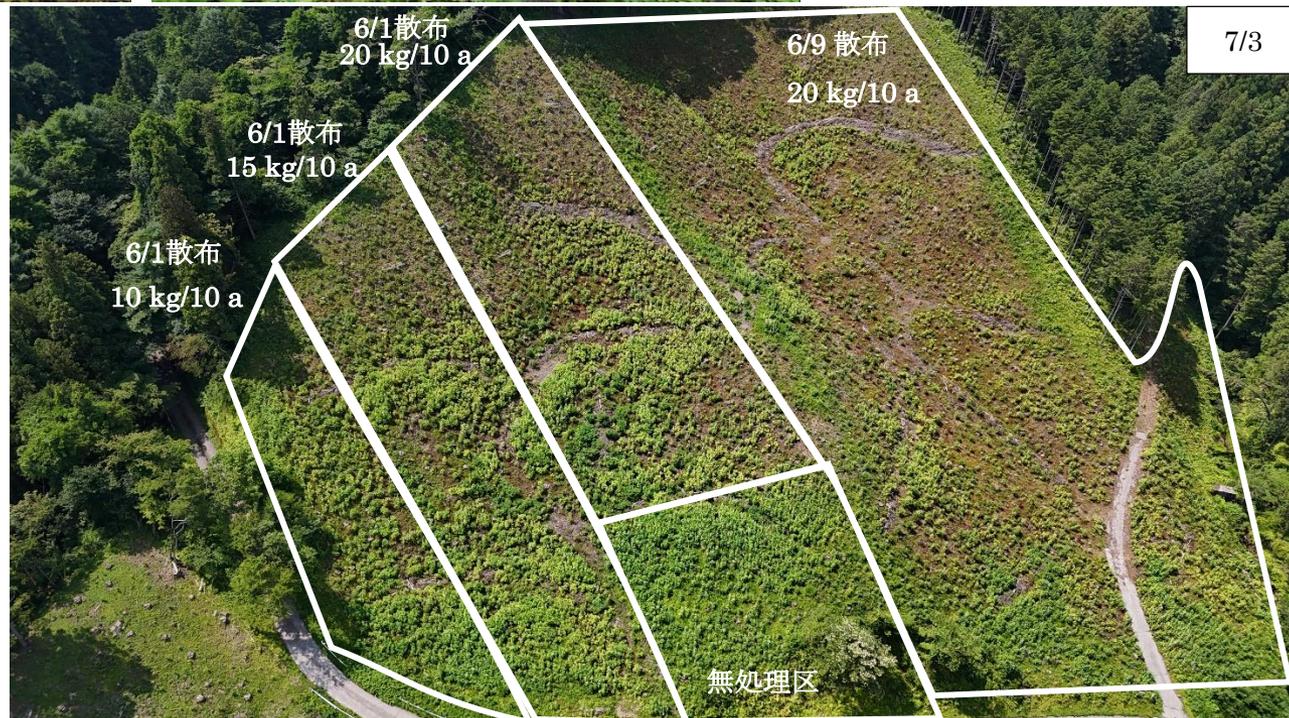


# 薬効薬害：他試験地結果

処理区



無処理区



散布時期の他、傾斜や薬量による効果差を検証

No.	試験地	面積 (ha)	樹種	植栽年数	散布日	主な植生	薬効	薬害 変色・枯死
1	長野原	0.5	カラマツ 等	3~4	6/13	ササ類・灌木類	△	一部あり
2	大桁	1.1	コナラ	2 (R5)	6/4	ササ類・シダ類	△	なし
3	東吾妻	0.6	スギ	2 (R5秋)	9/4	キイチゴ類・灌木類	△	なし
2025年度								
4	下仁田	3.4	スギ	3 (R5春)	5/26・ 6/1	タケニグサ 草本類・キイチゴ類	△ ○	なし
5	南赤城山	2.2	スギ	3 (R5春)	6/4	タケニグサ 草本類・キイチゴ類	△ ○	一部あり
6	穴山窪	2.6	スギ	2 (R6春)	6/16	草本類・ササ類 灌木類	△ △	なし
7	烏川	1.3	スギ	3 (R5春)	6/1・6/9	タケニグサ 草本類	× ○	なし
8	中之条	1.1	スギ	3 (R5秋)	6/12	草本類	△	なし
9	利根	1.8	カラマツ	2~3	6/13	タケニグサ 草本類・キイチゴ類	△ ○	なし
10	川場	1.7	カラマツ	4 (R4秋)	6/10・ 6/13	タケニグサ 草本類・キイチゴ類	△~× ○	なし
11	赤城南麓	2.0	スギ	2 (R6冬)	6/27	ササ類	△	なし
12	展示会 (南赤城)	0.5	スギ	3 (R5春)	5/21	タケニグサ キイチゴ類	○ ○	なし

薬効：○効果あり（薬効度3~5） △効果弱（1~2） ×効果なし（0）

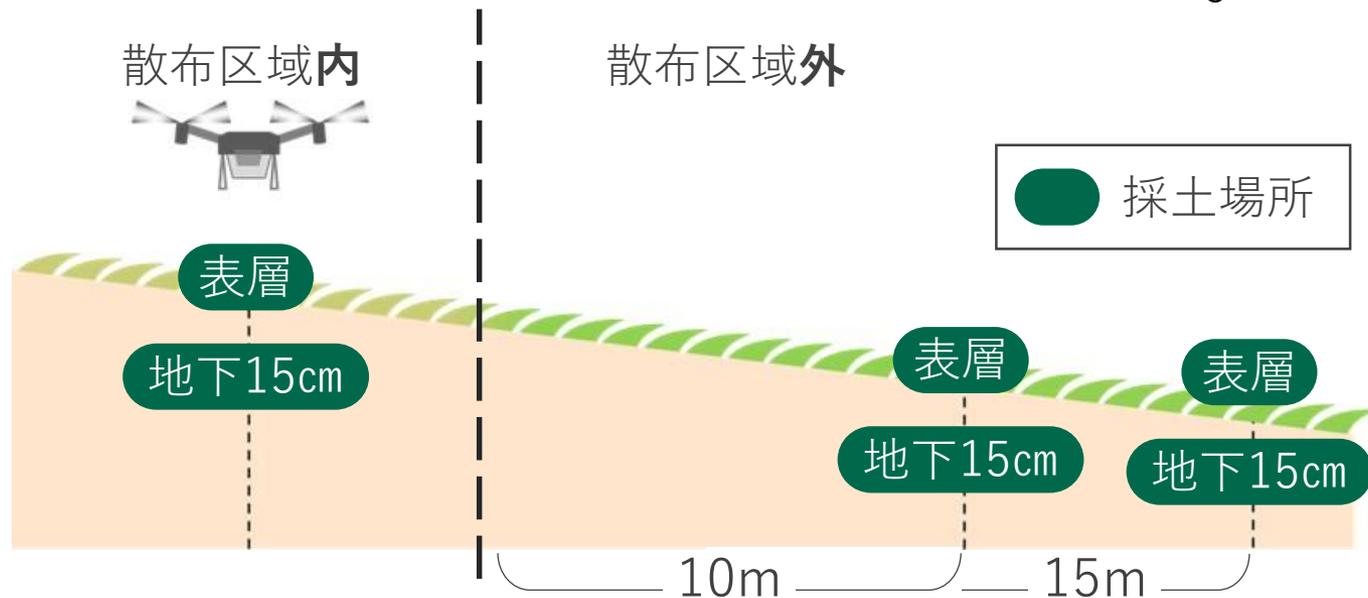
# 環境影響：調査方法

## ○ 沢水の分析（3試験地で実施）

- ▶ 散布90日後までサンプリング
- ▶ **水道水の $\text{ClO}_3$ 検査基準値**（0.6 mg/L）を指標とした

## ○ 土壌分析（2試験地で実施）

- ▶ 散布90日後までサンプリング
- ▶ 外部委託によりイオンクロマトグラフで $\text{ClO}_3$ を分析



# 環境影響：分析結果

## ○ 沢水の分析結果（大桁）

	散布前	散布中	散布後	1日後	7日後	29日後	62日後	90日後
ClO <sub>3</sub> (mg/L)	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D

(N.D = 検出下限値0.06 mg/L以下)

## ○ 土壌分析結果（南赤城山）

散布後経過日数		散布前	散布後	2日	5日	7日	15日	30日	43日	61日	90日
区画内	表層	N.D	N.D	12.0	2.40	1.80	1.20	N.D	0.07	N.D	N.D
	15 cm	N.D	N.D	0.09	0.55	0.59	2.30	N.D	0.31	0.10	N.D
区画外 10 m 地点	表層	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
	15 cm	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
区画外 15 m 地点	表層	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
	15 cm	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D

沢水3試験地・土壌2試験地  
いずれも薬剤の流出は**不検出**

# 省力化：調査方法

---

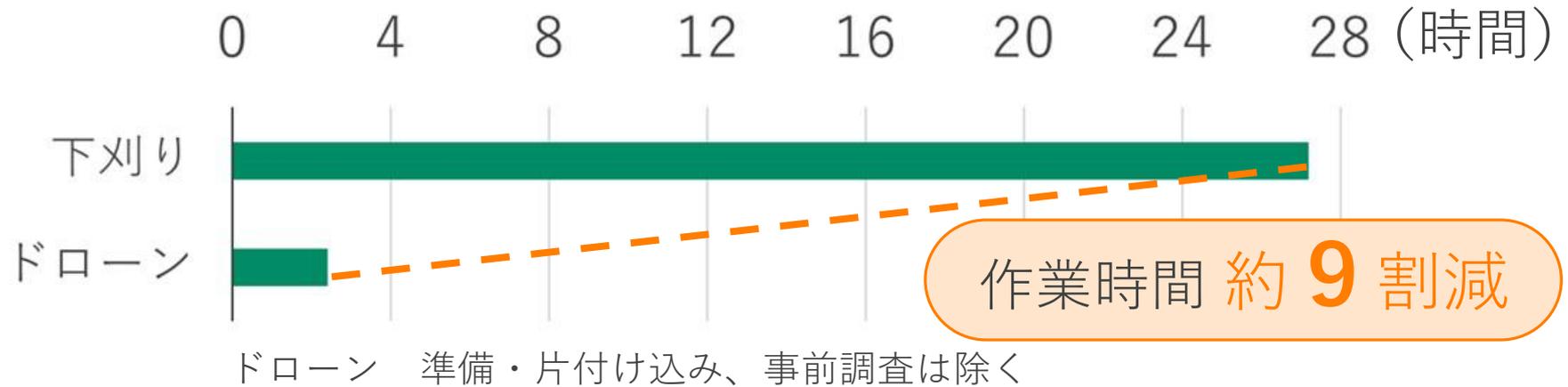
作業時間 作業人数 2～3人、準備・片付け込みの作業時間を計測し、下刈り\*と比較

\* 令和 6 年度群馬県民有林造林補助事業予定標準単価 参照

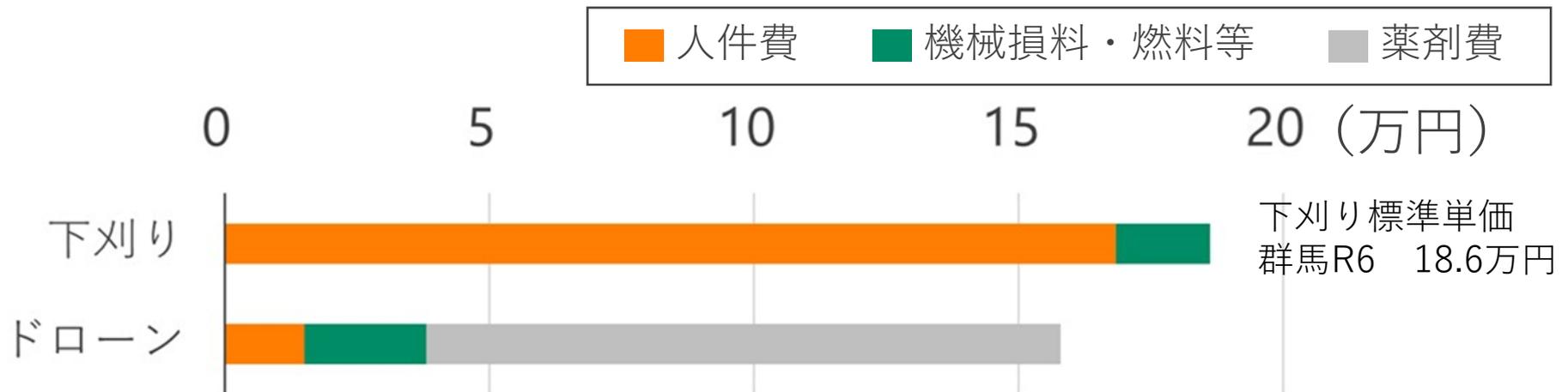
経 費 人件費 + 機械損料 + 薬剤費から算出

# 省力化：結果

haあたりの作業時間（作業人数2人）



haあたりの経費（参考）



# まとめ

---

## デズレートAZ粒剤のドローン散布

- ▶ 適切な環境条件・時期に実施することで  
下草の抑制効果あり
- ▶ 下草の高さが膝丈程度で散布するのが効果的
- ▶ 散布区域外への薬剤流出は不検出
- ▶ 下刈りと比較して作業時間が約9割減